



学校便り 琢磨

令和4年度 第16号 R4.12.1 三豊市立詫間小学校

栄光を讃える！

本日、放送で表彰状の伝達を行いました。おめでとうございます。

◎令和4年度火災予防ポスター

敬称略

優秀賞	5年 磯崎 帆孝	3年 若松 千怜	2年 高橋 由乃
佳作	4年 本條 莉梨	4年 吉久 絢菜	4年 岩本 茜
	3年 大開 拓海	2年 本條 照	

ナガレスタジオ見学（5年生）

11月29日（火）。5年生は、校外学習で、高松市庵治町にあるナガレスタジオを見学しました。栗島には、世界的な彫刻家である流 政之氏 作の「SAKIMORI」という作品を設置しています。ちょうど1年前の昨年11月、当時の6年生がその除幕式に招待され、流氏と詫間海軍航空隊跡地との関係や、栗島に「SAKIMORI」が設置された理由などを発表しました。このことをきっかけにして地元である詫間小学校は、栗島に行って「SAKIMORI」を鑑賞するとともに、高松市庵治町にあるナガレスタジオも見学するという学習を、5年生が行うということになりました。この日は、タブレットで作品を撮影し、特にお気に入りの作品（家に持って帰りたいと思った作品）を一つ選んで、その理由や家のどこに置きたいのかを発表しました。

なお、本年度は、5年生の時に栗島で「SAKIMORI」を見るができなかった6年生も、3学期（来年1月）に、ナガレスタジオを見学する予定です。



校内マラソン大会の応援、ありがとうございました。

本で行われた校内マラソン大会の応援、ありがとうございました。長い距離を走るのが得意な子も苦手な子も、一生懸命にがんばっていました。保護者の皆様の応援も、きっと子どもたちの背中を押してくださったと思います。

学校のホームページには、校内マラソン大会の記事をアップしていますので、ぜひご覧ください。



一度も見に行かなかった娘のマラソン大会

私は、走るのが得意な子どもでしたので、小学校の時のマラソン大会はとても楽しみでした。そして、だいたい、いつも1位か2位でした。1位の時は、ゴールした後で、苦しそうな顔をして走っている友達の姿もろくに見ず、「まあ、こんなもんだな。」みたいな涼しい顔をして、自己満足の世界にひたっていたと思います。2位の時は、「今日は、足が痛かったからな。」と、悔しさをかくして、自分自身に言い訳をしていたと思います。あまり感じのいい子どもではなかったと思います。

かなり昔の事です、マラソン大会が終わった後に、先生からチョコレートをいただいたので、その甘さだけは、しっかりと頭に残っています。マラソン大会=チョコレートという印象です。

一方、私の娘は運動が苦手で、小学生の頃、陸上大会や水泳大会はもとより、運動会でも活躍している姿を見ることはありませんでした。特にマラソンは大の苦手でした。呼吸器の持病があることもその原因の一つです。それに加えて走ること自体があまり得意ではなかったものですから、娘にとって、マラソンは苦痛以外の何ものでもなかったと思います。

マラソン大会が近づくと、なぜか(当然かもしれませんが)持病が悪化し、「マラソン大会、憎し！マラソン大会なんかなければいいのに。」と、娘は、一人でよく怒っていたものです。

それでも、娘は、マラソン大会を休むことはありませんでした。「マラソン大会は絶対見に来たらいかん！」と言いますし、成績も聞きはしませんでしたので、娘が何位だったのかは、はっきりとは知りませんでした。多分、最後から1番目か2番目だったと思います。

でも、私は自分の娘(今から十数年前の)は立派だと思っています。それは、娘なりに努力をしていたからです。運動が苦手な娘は、例えば、体育でハードル走をすると聞くと、段ボールでハードルのような物を作って、家の庭に並べて一人で練習していたのです。苦手なマラソンに向けても、夕方、家の周りを走っている姿を何回も見ることがあります。娘は、娘なりに考えてがんばっていたのです。そして、結果もしっかりと受けとめて、言い訳などは全くしませんでした。

私は、運動が得意でしたので、何の努力もせずに1位か2位でした。娘は、これだけ努力しても最後から1番目か2番目でした。もちろん、トップ争いをする者にだって、それなりに悩みも苦労もあります。自分で意識していないだけで、やはりどこかで努力もしていたことでしょう。ですから、どちらが立派とか立派でないとかではなく、一生懸命に取り組んだ全員が、間違いなく立派なのだと思います。マラソンが得意な子も苦手な子も、思ったような結果が出せなかった子も、思った以上に結果がよかった子も、体調が万全だった子も、そうでなかった子も、結果を受け入れられた子も、悔しくて結果を直視できなかった子も、今日の最高の頑張りができたなら、みんな立派なのです。そして、それは、いつの日か、必ず素晴らしい経験へと変わっていくのです。

今日、一生懸命に走っている詫間小学校の子どもたちの姿を見ながら、その姿を応援している保護者の皆様の姿を見ながら、もし、自分の娘が、1位か2位になりそうなくらい走るのが速かったら、私は仕事を休んで応援に行ったのだろうか、いや、行かなかったのだろうかと考えていました。

そして、あの時、やっぱりマラソン大会で走っている娘の姿を一度でもいいから見ておくべきだったと思いました。